

# 福島の進路

No.504

2024 AUG

8

## TOP Interview トップインタビュー

作家 兼 住職 玄侑 宗久

## 地域発! 現場検証シリーズ

宮泉銘醸株式会社

代表取締役社長 宮森 義弘

## 寄稿

ふくしまのミュージアム①

福島県立美術館

## 【特別調査】調査レポート

消滅可能性自治体について

～初めて「持続可能性」について分類された  
福島県内の自治体～

# 福島<sup>の</sup>進路

## CONTENTS

### TOP Interview トップインタビュー

2

混沌とした現代社会における生き方について

作家 兼 住職 玄侑 宗久

### 地域発!現場検証シリーズ

12

温度管理にこだわり 経験頼み排し、概念変革

宮泉銘醸株式会社 代表取締役社長 宮森 義弘

### 寄稿 ふくしまのミュージアム①

16

福島県立美術館

### 【特別調査】調査レポート

20

消滅可能性自治体について

～初めて「持続可能性」について分類された福島県内の自治体～

とうほう地域総合研究所 研究員 高橋 宏幸

### 福島県の取り組み・施策シリーズIV

27

夏の企画展「縄文 DX - 会津・ほうしゅうじり法正 尻遺跡と交流の千年紀 -」

福島県立博物館

### 福島経済マンスリー

30

県内経済は、公共投資や住宅投資などで低い水準が続いており、全体的に弱含みで推移している。

### 広告

公益財団法人 東邦銀行教育・文化財団附属 原郷のこけし群 西田記念館

電子ブック版では福島経済マンスリー詳細版と県内復興・経済日誌を含めた全ての記事をご覧ください。

県内復興・経済日誌（2024年6月） .....

2024年度評議員会および理事会開催のご報告 .....

聞き手 / 矢吹光一

一般財団法人とうほう地域総合研究所 理事長

作家  
兼住職

## 玄侑 宗久

# 混沌とした 現代社会における 生き方について

作家 兼 住職 ● 玄侑 宗久 (げんゆう そうきゅう) さん

1956 (昭和31) 年、福島県三春町生まれ。安積高校卒業後、慶應義塾大学中国文学科卒。様々な仕事を経験した後、京都の天龍寺専門道場に入門。現在は臨済宗妙心寺派の福聚寺住職。デビュー作「水の舐先」が芥川賞候補となり、2001 (平成13) 年、「中陰の花」で芥川賞を受賞。著書に小説として『アブラクサスの祭』『化蝶散華』『御開帳綺譚』『アマターバ ー無量光明』『リーラ 神の庭の遊戯』『龍の棲む家』『テルちゃん』『阿修羅』『四雁川流景』『光の山』など。

昨年、福島の進路7月号に特別寄稿「絆の酒」を掲載させていただいた作家の江上剛さんと親交のある作家兼住職の玄侑宗久先生から、小説家になるまでの道のりから、人生や生き方について深いお話を伺いました。

矢吹 ● 先生のプロフィールと言いますか人となりについてお聞きしたいのですが、色々な職業を経験された後、27歳でお坊さんになることを決断された理由について教えてください。

玄侑 ● やっぱり、小説を書くか、お坊さんになるかという迷いがありましたが、どちらにしても、どちらかになってしまえば、できないことがあるじゃないですか。だから、まずは肉体労働と水商売を経験しようと思って、それは大きな経験になりました。社会に必須な、それこそエッセンシャルワーカーを、物を書くにも宗教者になるにも、どちらにしても経験しておきたいと思ったわけです。特に、小説を書くとなると、色々な立場に移る訳で、どういう人に語らせるかということにもよりますが、普段ではない状態になるわけです。それは、ある立場に憑依している状態と思いますが、そこで色々な経験が役に立ちました。

矢吹 ● お坊さんや作家になる前に、積極的に色々な職業を体験しようとチャレンジされたことが生きているということですね。

玄侑 ● そもそも助平（好奇心旺盛）だったのでしょう。色々やってみて何かを糧にしようというよりは、やってみたいと思ったことをやってみるということです。実際、英語教材のセールスもやりました。何か人に物を勧めるということは、だます要素も入るといえるか、危うい面も感じましたが、それでもセールスを一度やってみたかったです。水商売はスペインに行った友達の代わりにナイトクラブで働いたことがきっかけで、10日くらいでいいからと言われて行ったら、そうはいかなくて、これもまた、やっぱり特殊な世界ですね。フロアマネージャーという、要するに黙って立っていて邪魔にならない存在にならないといけない仕事でした。勿論、お客の好みや、ボトルの名前を暗記することも必要で、最初の試験は一週間でボトルの名前を覚えて、お客が来たら顔を見た瞬間にボトルを出すことでした。それが、何となくうまくできてしまって採用されましたが、やっぱりあの世界は独特の面白さがあって、後に『阿修羅』など小説の場面にも出てきましたね。

矢吹 ● やっぱり、そういうご経験が色々な意味で今のご自身のバックグラウンドになるということでしょうか。

玄侑 ● そうですね。今の人達みたいに目標がはっきりしていて、そこに邁進するという生き方ではなく、ご縁があったものは受けてみよう、どこに向かうかは成り行き任せ、という面があったと思いますね。目標がはっきりしていて、そこに向かっていく人には、関係のないものが見えなくなるじゃないですか。

矢吹●そうですね。

玄侑●そうならないためには、面白いご縁があったら寄り道すると、結果的に豊かになるという気がします。目標に向かって進むことは、ある意味恐ろしいことだと思っていて、目的合理性ともいいますが、目的をはっきりさせて、そこに合理的に効率最優先で進んで行くわけです。これはもう戦いで、戦争の原理ですね。目標を明確にして、そこに邁進していると偶然性を楽しめない。芭蕉の句「よく見れば、<sup>なぜな</sup>薺花咲く垣根かな」のように、寄り道しないと見えない世界がある訳です。普通、薺のような花は、目標に向かって邁進していたら絶対見ないでしょう。どこかで、目標なんて仮のものじゃないかと思っていないと、燃え尽きるのではないのでしょうか。偶然、目の前に現れたものが見えないような状態というのは、やっぱり現代人の病だと思えますね。



矢吹●そうですね。我々も経済合理性優先のため、人としての情理をどこかに置き忘れていてのではないかと思います。効率だとか目的合理性ということが目的ではないにも関わらず、(豊かになるとか、みんなで地域を良くするとか、本当に大事なことがあるのにも関わらず)何かそれを目的とってしまうことが、いま起きていて、凄くはっとさせられます。

玄侑●もう、子供達がそうですね。結局、偏差値等で、お前が受験できる場所はこっつて決められるので、そういう中で目的の大学に入るためには、こんなに面白い人だけど付き合っているはいけないということになる。一生のほんの一時期の目標のため、切り捨てるものにどれだけ面白い相手がいるか……、ある意味目標病ですね。今の子供達はあまりにも自殺が多いでしょう。何が不満なのっていうくらい成績もいいし、思い通り志望校に入ったけれども、目標が高くて、そこにちょっと届かない子のダメージがむしろ大きい訳ですよ。本当にかわいそうですね。

矢吹●この間、大熊町の教育施設「学び舎ゆめの森」に行ってきました。0歳から15歳までの子供達が学ぶ認定こども園と義務教育学校で、画一的な集団教育ではなく、中学3年生の授業に小学6年生が出たり、チャイムが無かったり、切れ目のないシームレスな学びを行っています。要は、右肩上がりでどんどん人口が増えていく時代は、教室でみんなに同じものを教えていましたが、ここでは

1人ひとり異なる「好奇心」を伸ばす教育に取り組んでいます。中には、通常のカリキュラムに当てはまらない子供達もいますが、(ある意味そういう子供達が世の中を変えていくのかもしれませんが)この自由な環境で伸び伸びと学んでいます。

**玄侑** ●江戸時代の寺子屋は、子供達の前に先生が居て話すのではなく、先生が机の間を歩いて回って質問を受けて個別に話す形でした。結局、大工になりたい子供や左官になりたい子供や学者になりたい子供もいるので、みんな教科書が違っていて(約7千種類)一律に話せることが無い。だから先生は回りながら教えたんです。江戸時代の方がよっぽど進んでいますよ。明治になって教壇から一律に話す方法を、欧米から輸入して退化しました。教科書のレベルも高く、葛飾北斎が絵を描き、滝沢馬琴など色々な人が執筆しています。当時の教育レベルの高さは恐らく世界一ですね。それを振り捨てて、富国強兵の道を進んで行く訳です。

**矢吹** ●そういう意味では、まさに転換点になってきそうですね。

**玄侑** ●転換点と言っても、アメリカを追いかけるといのが、未だに止まらないじゃないですか。何事につけてもアメリカを追いかけている気がして、だから自然に犯罪もそうやってきている。何から何までアメリカ的になってきているのではないのでしょうか。

**矢吹** ●確かにそうですね。合理的なんていう言葉も何となくそっちから来ている感じがします。

**玄侑** ●米国メジャーリーグの大谷さんは、確かに凄いし頑張っていますが、目的を持ってそこに邁進して成功している、ほんの一握りのトップにいる人間です。たまには途中で挫け、やっぱり向いていないからと道を変えた人を追いかけてみてはどうかと思いますが、マスコミはどうして成功者ばかり放送するのでしょうか。結局は、ああいう生き方をみんなにさせて、大部分は駄目だと絶望して、死んでしまう人もいる訳でしょう。だから、本当に明治になって西洋からあてがわれた物差しで測っているような感じがします。寺子屋ではみんな別々な物差しを持っていたので、隣と比較する必要なんてなかった訳です。

**矢吹** ●確かに優劣を何かで決めたり、競争させたり、比較することは、何となくその人を本当に育て育むことと異なりますね。

**玄侑** ●早くから選択させすぎるといいます。個性って、しばらく同じことをやらせてみないと分からないんじゃないですか。江戸時代は、例えば大工の息子なら大工になるという世界でしたが、棟梁のところへ行って適性がありませんでしたということにはならない。個性ではなく適応力とでも

いうのか、実は、何にでもなれる者が大工をやっているということが肝心で、個人の適応力が大事にされていました。

矢吹●なるほど、明治の頃からどんどん広がったのでしょうか。

玄侑●個性という言葉は戦後でしょうけど。褒められる部分だけを取り上げて個性と呼んでいて、そういう物差しで人間を見るとおかしなことになると思いますね。最近の社会は、罪を犯した人が矯正施設から戻っても許さない雰囲気です。人はどんな状態にも適応できると思っていれば、一回白紙に戻って来たのだから、受け入れようとする社会になると思うのです。しかし、そういう方向には行ってないですね。親への差別が子供に繋がるような部分もありますし、パーソナリティというのは馴染まないですね。

矢吹●そういう意味では、教育全体が画一的なマニュアルに導かれているように思えるのですが、そういう所が全部変わっていかないといけない。子供達の世界だけで変えるのは難しいし、社会全体がそういう方向（不寛容な社会）へ向かっているということは、やっぱり教育の問題なのでしょうか。

玄侑●それは大きいでしょうね。先日、県立高等学校の先生方向けに講演の依頼がありました。先生方が何を悩んでいるのかわからないのですが、今、学校も大変なんじゃないですかね。

矢吹●先生方が追い込まれて、離職される方も相当増えていると聞いています。お坊さんの世界は、続かなかったり辞めたりすることはないのですか。

玄侑●お坊さんの世界は、有無を言わず、こうしなきゃいけないというきまりごとはあります。ただそれに対してどう思うかは自由で、そこに干渉しません。道場では仲間と24時間一緒ですから、一応集団で生活するルールがあって、その意味では合理的です。例えば、我々の禅宗は警策で叩かれるのですが、あれを止めたお寺がありましてね。そういう社会の風潮というか、お子さんのLINEを見た母親が乗り込んできたようです。スマートフォンは持ち込んでいけないのですが、持ち込んだのでしょね。よく見えない奥深い理由があって続いてきた習慣を、叩くのは人権侵害だと言って、単純に辞めていいのだからと思いますね。

矢吹●長く続けると言えば、日本に百年企業は41,000社あって、その内、千年を超える企業が7社あるようです。技術の継承や雇用の確保など色々な意味で長く続けることは大事なことです。質問が少し戻ってしまうのですが、元々色々な経験をされて僧侶という方向感に導かれる中で、小説をお書きになられたのでしょうか。

玄侑 ● いやいや、戻ってきてすぐに作家活動はしませんでした。禅道場で修行してきて、お寺を色々な機能を持った室町末期くらいの文化センター的な場所にしたいと思い、シナリオを自分で書いて色々なイベントをやりました。文楽や、弦楽四重奏や、宮沢賢治の音楽と詩の朗読などです。ところが、組織というものの厄介さを感じて、こんなことなら一人の作業で完結させようと思って、小説を書いた訳です。20代の頃には書ききれなかったことが、何故かするりと書けてしまったのです。

矢吹 ● おいくつの頃ですか。

玄侑 ● 39歳か40歳の頃ですね。小説を書くことにおいて、20代はある種の壁を感じていたのですが、いつの間にか壁が無くなっていると思ったのです。壁に何度もぶつかって行ってぶち抜く方法ではなくて、壁があったら横に進むという方法で、気が付いたら壁が無くなっていたという感じです。その作品を以前見てもらっていた編集者に相談したら、新潮社の編集長を紹介されて、原稿を送ってから会うことになりました。「今、ほとんどが新人賞をもらってからデビューする作家が多いのですが、編集長推薦でデビューすることもできるので、どっちにしますか」と聞かれて、新潮社編集長推薦でデビューしました。(第124回芥川賞候補作「水の舳先」) 私の少し前に平野啓一郎さんが新潮社編集長推薦でデビュー(第120回芥川賞受賞作「日蝕」)しているので、その例に倣ったわけです。



矢吹 ● 元々小説家になりたいと思っていた思いが、ここで結実した訳ですか。

玄侑 ● 翌年、芥川賞(第125回芥川賞受賞作「中陰の花」)の授賞式で、ある選考委員から「小説という形式は40代以降のための表現方法で、40を過ぎないと面白くない」というようなことを言われました。まるで私を慰めてくれるような言葉だったのですが、デビュー作が候補作になって、2作目で受賞したので、自分でも驚きましたね。

矢吹 ● 受賞されてから、一気に変わりましたか。

玄侑 ● 一気に変わりました。小説というものは書くのに時間がかかるので、あまり急な話はないですが、禅や仏教に関する新書的なものに応じたために要望も多くて、もうどうなっちゃうのだろうと思いました。

矢吹 ● 今は、どのような本を執筆されていますか。

玄侑 ● 今は頼まれたエッセイと1年365日、日めくりの「禅語こよみ」を書いています。毎日、その日に合ったような漢字一文字を選んで、漢字の解説や、それを使った言葉や俳句を解説して、生きることに力をもらえるようなものを書いて、毎日毎日365日の日めくりになる予定です。

矢吹 ● 仏教に限らず、医療や物理学の世界など色々なジャンルのお話をされていますが、何故そこまで探求するというか、追い求めるのでしょうか。

玄侑 ● やっぱり助平なのですね。専門家が専門家の言葉で話すより、カジュアルで分かり易い言葉にしたいと思っています。元々生物学や物理学が好きでどうしても読んでしまっって、そうすると仏教が言っていたことが、どうしてこんなに先取りできたのかということが凄くあって面白いのです。

矢吹 ● 仏教の教えは、そういう森羅万象をしっかり押さえているのですね。

玄侑 ● 図書館の分類学で分類してしまうと、文学と宗教が関係ないようになってしまいます。だけど、自分の歴史を考えてみると、そこは分けられないなという気持ちになって、最終的に頭を剃った訳ですが、分けられないことってあると思いますよ。やっぱり、ジェネラルでありたいというか、生きることは本当に一つの分野で済む話ではなく、総合的である以上、色々な世界に首を突っ込んでしまうのですね。例えば、物理学の世界に宗教に興味を持っている人がいたり、生物学者なのに哲学が好きな人がいたり、面白い出会いがありますね。



矢吹 ● 出会いと言えば、作家の江上剛さんが1日修行に来られたのは江上さんからオーダーがあったのですか。

玄侑 ● そうではなくて、新潮社が企画して、江上さんを送り込んだところ、うまい報告を書かれたので、今度はサントリーでマカの宣伝をやっていたエッセイストの齋藤由香さん（北杜夫の娘さん）を寄越しました。私は北杜夫

のファンでして、そのお嬢さんを1泊で修行させてくれという企画で、草むしりをやってもらいましたが、二人とも面白かったですね。

矢吹 ● そういう偶発的で偶然な出会いは、出会うべくして出会うのでしょうか。

玄侑 ● 誰でも、同じくらい出会っていると思いますが、その時、気になっていることがあると、見えなくなる。だから、なるべく目標のない時間を多く過ごしていれば、色々なものが目に入ると思います。

矢吹 ● 玄侑さんでも、忙しいと目に入らない時がありますか。

玄侑 ● 勿論、そんな構ってられないという時はありますよ。だけど、そういう時間を減らしたいとは思いませんね。坐禅は、目的のない時間です。歩くことも、ウォーキングと言うと何か健康のためという感じで一気に価値が低くなると思いますが、そうじゃなくて、散歩なら色々なものが目に入るし、冷静になれるし、出会いがあると思います。

矢吹 ● でも、我々は、ともすると何か目的が無いといけないみたいなところがありますね。

玄侑 ● 学校は、もう完全にそういうふうに住んでいて、目的もなく過ごすことは罪悪のように言っているの、目的が無いということの幸せを感じられないのではと思います。

矢吹 ● 若者や子供たちに伝えたいことやメッセージをお願いします。

玄侑 ● AIが出て来て、結果だけいただくという仕組みは、カンニングの王様のように、感心しないですね。お坊さんの世界でも、若いお坊さんは宛名書きを筆で書かず、プリンターで印刷している人が多いですが、そこで無くしているものは大きいと思います。合理主義で結果さえ良ければいいという考え方に通じます。しかし、我々は、宛名書きも修行の一部と考えて、このプロセスによって我が身ができていくという考え方なのです。修行とは、結局自分自身が作品だという見方で、自分がどう変わって行くのか、それが生きていく楽しさだろうと思います。大学受験生が小型カメラ付き眼鏡でカンニングしましたが、AIも似たようなものじゃないかと思えますし、こういう在り方がどんどん進むことは、なにか末恐ろしいものを感じます。

矢吹 ● 仏教の世界では、AI的なものは基本的に無いのですか。

玄侑 ● やっぱり、直観を最も大切にします。直観を磨くということは、論理や言葉が頭の中になく状態を自ら作ることで、坐禅や読経を行う過程で導かれます。ここに「黙識」と書かれた額がありますが、阿頼耶識と同じ意味で、黙っているけれど知っているということです。要するに全ての経験や知識が阿頼耶識に入っていて、それが、本当に必要な時には、ぽっと出てくれる。だから、我々は直観

が働く状態を如何にして作るかということが肝心です。お経や坐禅で深まっていく時もそうですが、書いている小説のラスト近くでもそんな状態になるのですよ。ほとんど自分で書いている気がしない自動筆記のような、自然に浮かぶ言葉を写すような感覚です。それが堪えられなくて止められないのですが、AIは犯罪利用の恐れを打ち消せるほどのメリットは全く感じないですね。

矢吹●先日、定期講演会で柳澤秀夫さんが、情報の重要性和ジャーナリズムの役割について、取材現場に自分で行って、自分がつかみ取った情報が大事だと話されました。

玄侑●『莊子』にあるのですが、孔子の一行が通りかかった時に、あるおじいさんが、川から水を汲んで、それを上まで何往復も運んでいた。それを見た孔子の弟子が「撥ね釣瓶を使ったら」と勧めたところ、「私も撥ね釣瓶があることは知っている。だけど、恥ずかしいから使わないのだ。」と答えたそうです。おじいさんは水を運ぶことを一つの行としてやっている。瞑想みたいなものですね。だから、宛名を筆で書くということも一緒ですが、それは面倒でしょうが楽しいですよ。便利なものを使うと、どんどん楽しさも失われ、そういう安易な方向に流れてしまうのは恥ずかしいという訳ですよ。

矢吹●なるほどですね。

玄侑●元朝日新聞記者の稲垣えみ子さんは、東日本大震災を受けて電気料半減を目指し、掃除機や冷暖房器を処分し、更に冷蔵庫を使わない生活をしています。彼女が書いた「寂しい生活」(幻冬舎文庫版)に解説を頼まれて書きましたが、家の中からどこに出なくても生きて行けるようなものを所有しているのが今の生活じゃないですか。しかも、冷蔵庫の中には、いつ食べるかわからないものがいっぱい入っている。そうして消費を促さないと生産者が成り立たない。だけど、結局冷蔵庫に入っているのは、よくわからない欲望で、その欲望を今の社会はみんな大事にして、それで世の中が回っていることを、彼女は痛感した訳ですよ。究極のエコ生活は托鉢で生きていくというお釈迦様の生活ですね。要するにいただいたもので暮らす。これはエコですが、現代人には無理でしょう。

矢吹●なるほどですね。それは普通にはできないでしょうが、考えさせられますね。本当に今日は貴重なお時間をいただきありがとうございました。



## ● トップインタビューを終えて ●

今回、先の見えない不透明な時代にあって、混沌とした現代社会を生きる処方箋を玄侑宗久さんに伺った。地域の事業経営者の方々は、「人財不足、エネルギー・資材価格高騰（円安・戦争）、販路の縮小（人口減少・社会構造の変化）」などに日々悩み、格闘している状況にある。今回、経営者の方々を代表して質問し、生きる上でのヒント、エールを少しでもお届けしたいと考えた次第である。

玄侑さんは、若き20代の頃に、好奇心から、英語教材のセールスマンやナイトクラブのフロアマネージャーなど様々な職業体験をされて人としての幅を大きく広げられた。「今、現代人は、目的や目標を明確にしすぎて、大事なことが見えなくなっていて、大切なご縁を逃してしまっている。偶然に目の前に現れたものが見えないような状態こそ現代人の病だ」とおっしゃる。そのお話にとても心がざわつき、「私たちは日々、自らが作りあげた繁忙を理由に、とても大切なものを失っているのではないか？」という不安に襲われた。

玄侑さんのお話を聞いていると不思議と背中と背骨がシュツとする。凜とした佇まいと笑顔の中にととき垣間見える鋭い眼光、慈愛と只者ではない雰囲気は漂う。全てお見通しなのかと不安になるからであろうか。

玄侑さんとお話していると、「私たちはどこから来て、どこに行くのだろうか？何のために生まれて、何のために働くのだろうか？生きるとは何だろうか？一人ひとり、それぞれに答えの無いことではあるが、やはり無の状態の中にこそ、その本質が存在するのであるか？」など様々なことが、頭の中を駆け巡るとともに、不思議なことに心が整い、そして落ち着く。

今回、初めてお会いし、そのお人柄に魅せられるとともに、心がとても「たをやかに」なった。

明日から、あてもなく、ふらふらと散歩してみよう。心を自由にして偶然の出逢いを楽しんでみよう。

不透明な先の見えない時代であるからこそ、直感を大切に、今を生きていくこと、それを楽しむこともまた大事なのではないだろうか。

玄侑さんは、インタビューの間、ずっと正座してお話して下さったが、インタビューに伺った我々は、全員早々に足を崩してしまった。大変に申し訳ございませんでした。（修業が足りません）

（インタビュー 矢吹光一）



当研究所 矢吹理事長(左)・福聚寺 玄侑宗久住職(右)

# 地域発! 現場検証シリーズ

持続的競争力研究会

宮泉銘醸株式会社

代表取締役社長 宮森 義弘

□所在地 会津若松市東栄町8番7号

□設立 1955年12月

□URL <http://www.miyaizumi.co.jp>

□事業種目 酒造業

□TEL : 0242-27-0031

## 温度管理にこだわり

## 経験頼み排し、概念変革

福島県には現在も50以上の酒蔵がある。日本酒の需要減少や時代の変化により、多くの酒蔵が衰退の憂き目に遭遇している中、酒蔵の承継に挑んでいる。また幸いにも、酒造りの技術や知識を習得できる「福島県清酒アカデミー」で学んだ多くの若手、蔵人達が事業変革と新たな酒造りに取り組んでいる。こうした企業努力の結果、全国新酒鑑評会では2022年まで、福島県は都道府県別金賞受賞数日本一の栄誉で、9連覇を達成した。

その金賞受賞蔵の一つが、会津若松市の鶴ヶ城近くに酒蔵を構える宮泉銘醸で、製造だけでなく販売に至るまでのバリューチェーンのすべてのプロセスで変革に取り組んでいる。

## 創業からの事業展開

1955年、宮森義弘現社長の祖父が、会津若松市内の酒蔵「花春酒造」から暖簾分けで創業したのがこの会社の始まりだ。その頃の時代には、多くの小規模酒蔵と同様、造った酒の大半を花春酒造へ「桶売り」して、経営を成り立たせていた。しかし、日本酒消費量の減少を機に多くの酒蔵が「桶買い」をやめたことにより、これまでの「桶売り」からの事業転換が求められた。酒造業がどんどん淘汰されていた時代だった。



▲宮泉銘醸

1980年に社長に就任した先代は、その桶売りが無くなったことで、まずは、自社銘柄「會津宮泉」を造り、売り出した。とはいえ、日本酒の製造販売だけでは経営が厳しいので、観光業への転換を図った。酒蔵が面している通りから鶴ヶ城が望め、徒歩圏内という立地を生かし、酒蔵を開放した。見学に訪れた観光客をメイン・ターゲットとして、酒に加えてお土産も直接販売し、喫茶店も併設するという、観光業主体のビジネスモデルに転換した。このアイデアが当たり一時は売上も増加した。ところが、他の酒蔵、業種も同様のビジネスモデルに参入し目新しさを失うと、それに伴い売上も減少、赤字経営へと落ち込んだ。

2002年には、製造石数200石（3万6千リットル）にまで減少し、福島県内で製造石数が一番少ない酒蔵になってしまった。

## 酒造りに特化した酒蔵へ

蔵人が辞め人手が不足していたことから、大学卒業後4年間、東京でシステムエンジニアとして勤務していた長男義弘氏（現社長）が呼び戻された。先代の父親から「酒蔵を辞めるか辞めないかすべて決めていい、やりたいようにやれ」と、会社のすべてを託されたという。「小さい頃から家を継ぐ覚悟はありましたし、やるからには、酒造りに特化した酒蔵にしようと思いました」（宮森社長）。

再建に挑み始めたのは26歳の時だった。酒造りの知識がなかったため、福島県清酒アカデミーで3年間、酒造りの基礎を学び、理想とする酒造りに取り組んだ。先代までは、他の酒蔵と同様、現場責任者である杜氏に酒造りのすべてを任せていた。そのため、「その頃の杜氏は、蔵の評価を上げようと、鑑評会に出す酒に力を入れていました」（宮森社長）。

まず、始めたのが、従業員の意識改革と工場内の整理整頓と補修。設備だけでなく、酒造りの製造工程をすべて見直した。「杜氏の理解を得ながら従業員の皆を、1本1本丁寧にすべての酒を造るという意識へ変革するのが一番大変でした」（宮森社長）。

自ら積極的に現場に入り、酒造りに関して杜氏達と本気で腹を割って話し合い、手間はかかるが丁寧なおいしい酒を造っていこうという意識の改革・共有を図ったのである。

## 酒造り、温度管理へのこだわり

宮泉銘醸の酒蔵は、黒い瓦屋根、白塗りの壁が目をはき、木材をふんだんに使った、趣のある外観を保っている。古くからの酒蔵のイメージそのものである。日本酒を造っている蔵の中に入ると、ひんやりとした空気に包み込まれ、発酵したお米のフルーティーな香りが満ちている。しかし、その製造現場は、伝統的な酒蔵とは違う。

「米作りから始まって、お客さまの口に伝わる、飲んでいただくまでが、酒造りだと思っています」（宮森社長）。



▲厳選された原材料米を使用する酒造り



▲手間を惜しまない洗米・浸漬

原料米にもこだわり、地元で契約している農家とともに栽培した福島県会津産米の「五百万石」や県外の名産地米「山田錦」などの酒造好適米を季節により使い分けている。

蔵の中には、造られた酒を素早く分析するために、多様な分析装置が所狭しと置かれている研究室が設けられている。経験に頼る酒造りから数値データ

とその分析による科学的な日本酒造りへと製造工程を変革した。

おいしい酒造りのため絶えず設備投資を行い、蔵を改造・改築し、蔵全体を冷蔵庫にしている。製造工程では、徹底した温度管理にこだわり、工程ごとに適切な温度を保っている。また、出来上がった酒をすぐに瓶詰して冷蔵保管することで、作り立ての新鮮さを維持していることも、宮泉銘醸の特徴である。

販売網でも、販売に至るまでの温度管理を徹底できる取引先を選別し、おいしいお酒を届けたいという志を一にする、全国で100軒程度の契約店のみに絞り込んで卸すことにより、消費者が口にするまでの品質管理を徹底している。



▲出来上がった酒の瓶詰作業

## 二つの銘柄

宮泉銘醸には、「寫楽（写楽）」「會津宮泉」という二つの銘柄がある。「写楽」は、同じ本家筋の一つだった酒蔵が廃業することになり、その蔵で造っていた銘柄を引き継いだ。「写楽」は宮森社長を中心に醸造しており、これまでの鑑評会用の酒造りで培ってきた技術をさらに向上させつつ、季節に沿った銘柄米をしっかりと磨いて造ることによって、フレッシュな香りとさわやかな口当たりの酒に仕上げている。

引き継がれてきたもう一つの自社銘柄「會津宮泉」。このブランド酒は、宮森社長の弟で、兄の志を一緒になって実現しようと研鑽に励む、宮森大和専務取締役を中心に造り込まれている。「伝統を守りつつ、次の時代に挑むような、新たな試みを」をコンセプトに酒造りがおこなわれている。ほどよい酸味も備えており、後キレがよい酒だ。宮泉銘醸は、造り立ての日本酒の旨さを徹底した温度管理で実現することで、日本酒の概念を変革し、宮泉銘醸を再起させた。義弘社長と大和専務の兄弟2人を中心に、理想の酒を求めて、日々おいしい酒造りに取り組んでいる。



▲會津宮泉純米酒

▲寫楽純米酒



▲宮森大和専務

### 聞き手・執筆者

神田 良（かんだ まこと）

日本生産性本部 生産性新聞 編集委員

明治学院大学 名誉教授

RIMS 日本支部 支部長

嵐 俊勝（あらし としかつ）

とうほう地域総合研究所研究員

「地域発！現場検証シリーズ」は、公益財団法人日本生産性本部との共同取材企画です。なお、生産性新聞の掲載内容と一部表現が異なります。

寄稿

ふくしまの  
ミュージアム①

## 福島県立美術館

収蔵作品の充実をはかり、  
貴重な文化財である美術品の保存につとめ、  
継続的な調査研究にもとづく展示・普及事業を  
積極的に展開するとともに、  
美術に関するさまざまな情報を提供します。

〒960-8003

福島市森合字西養山1番地

Tel.024-531-5511 Fax.024-531-0447





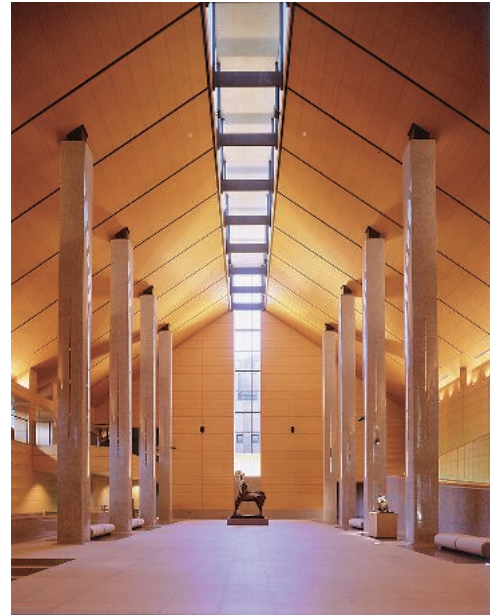
外観

福島県立美術館が開館したのは1984（昭和59）年のことです。当時、日本では「地方の時代」「文化の時代」といわれ、全国で美術館建設ブームが起きていました。そのような時代背景のなか、1976年に就任した松平勇雄知事は、文化水準の向上、文化・教育施策の重視の方針を打ち出し、「文化を考える県民会議」や「文化振興会議」などを経て、県立の博物館・美術館・図書館の3館が建設されることになりました。

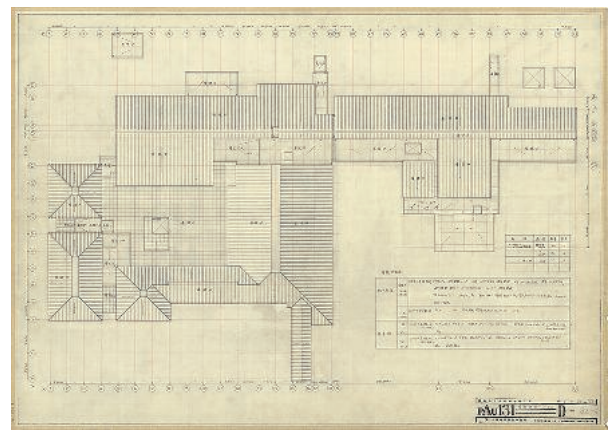
当館は福島市の信夫山の南麓に、県立図書館と隣接して建てられました。当館の設計は、三春町出身の戦後日本を代表する建築家・大高正人（1923～2010）が率いる大高建築設計事務所によるもので、信夫山を借景にした、環境を最大限に活かした建築となっています。建物前面には信夫山と空が映り込む池のほか、広い芝生があり、犬の散歩など人々の憩いの場として親しまれています。

館内に入ると、柱が立ち並ぶ吹き抜けのエントランスホールがあり、マリノ・マリーニ（1901～1980）の《騎手》が来館者を出迎えます。建物は2階建てで、半地下となっている1階では主に企画展を開催し、当館ではこれまで200回以上の展覧会を開催してきました。一方、2階の常設展示室では当館の収蔵作品によるコレクション展を開催し、年4期に分けて展示替を行いながら、常時約100点の作品を展示しています。常設展示室は、部屋ごとに壁の材質に変化がつけられており、切妻型の屋根の形に合わせた高い天井のなか、ゆったりと鑑賞をたのしむことができます。

収蔵作品は、開館当時は600点ほどでしたが、



エントランスホール

大高建築設計事務所 福島県立美術館建設工事  
屋根状図 1:200 1982年

これまでの活動のなかで質量の充実につとめた結果、現在は4,000点以上に上ります。本県出身作家を中心に、日本の近現代美術の流れを展望できるコレクションとなっています。

#### ◇版画

当館が建設されることになり、会津坂下町出身で、世界的に活躍した版画家・斎藤清（1907～1997）から、貴重な初期の作品を含む代表作の寄贈を受けました。最終的には約500点にもなり、当館では定期的に回顧展を開催しているほか、コレクション展でも必ず展示するようにしています。版画は、斎藤作品を中心に、創作版画や現代版画のコレクションを充実させています。

◇日本画

酒井三良（1897～1969）や大山忠作（1922～2009）ら県作家作品のほか、速水御舟（1894～1935）ら日本を代表する作家の作品を収集し、近現代日本美術史の流れのなかで体系的に紹介できるようにしています。

◇洋画

二十歳で夭折した白河出身の関根正二（1899～1919）は、大正時代を象徴する画家として近代日本美術史上に位置付けられており、当館は最も多くの作品を所蔵しています。関根や岸田劉生（1891～1929）などの大正洋画のほか、昭和から現代に至る作品を系統的に収集しています。

◇海外

風光明媚な自然に恵まれた本県には、近代以降多くの作家が訪れており、そうした観点から海外作品も風景画に主眼が置かれました。日本の作家に影響を与えた印象派はクロード・モネの《ジヴェルニーの草原》などを収蔵しています。また、海外作品のもうひとつの柱はアメリカの具象絵画で、アンドリュー・ワイエス（1917～2009）や

ベン・シャーン（1898～1969）の作品は日本有数のコレクションとして知られています。

今年開館40周年を迎える当館では、8月3日から記念展第二弾として「みんなの福島県立美術館 その歩みとこれから」を開催いたします。本展では、当館の歩みについて、コレクションや当時の資料とともに振り返り、また、日々の活動や仕事についてもご紹介する予定です。

多くの方が美術館に足を運ばれるのは展覧会ですが、そうした展示活動のほか、美術館としての大事な仕事のひとつに、文化財としてのコレクションを未来に守り伝えていく、保存の仕事があります。

美術館では、温湿度の整った展示室で、有害な紫外線等を発しないライトを使用して、照度や展示日数も調整したうえで作品を展示しています。作品は定期的に状態を点検し、問題が生じた場合には、修復などの処置を施します。こうした美術作品を守り、現在と未来の来館者の方々に、よい状態で鑑賞いただくためのさまざまな活動につい



酒井三良  
《雪に埋もれつつ正月はゆく》  
1919年



関根正二  
《姉弟》  
1918年



佐藤玄々（朝山）《牝猫》  
1928年  
横井美恵子コレクション



速水御舟  
《女二題 其二》  
1931年



岸田劉生  
《静物(白き花瓶と台皿と林檎四個)》  
1918年



クロード・モネ  
《ジヴェルニーの草原》  
1890年



修復の様子



アートカード

でも、本展では具体的にご紹介する予定です。いわば美術館の「みえない仕事」をご覧ください、またとない機会になります。

また、当館では、美術をたのしんでいただくための取り組みも数多く行っており、そうした活動についてもご紹介します。

当館では、ギャラリートークや講演会、団体解説などの鑑賞プログラムのほか、作家とともに創造するたのしみを体感する創作プログラムなどを開催しています。館外では、学校の先生方の協力のもと、作家とともに生徒が制作を行う「おとなりアーティスト」や、当館コレクションが印刷されたアートカードを使った授業などが行われています。また、視覚障がい者の方に美術作品を楽しんでいただくための鑑賞講座も行っています。

本展開催期間中には、鑑賞補助教材のひとつであるアート・キューブを実際に体験していただく

機会も設けており、ぜひご参加いただければ幸いです。

美術館は、どのような方にも開かれた公共の場です。美術に触れることで、多くの方に豊かな時間を過ごしていただきたいと願っています。

地域の文化の保存と創造の場として、時代の変化に応じながら、当館は今後も県民のみならず、歩み続けていきたいと思っています。



アート・キューブ

会期中の  
イベント

- 講演会①「絵のこと、生きること—私の『美術館』論—」  
講師：窪島誠一郎氏（戦没画学生慰霊美術館「無言館」館主）8月10日（土）
  - 講演会②「福島県立美術館—コレクション事始め」  
講師：早川博明氏（当館元館長）9月1日（日）
- ※両講演とも14:00～15:30 会場：講堂 定員250名（申込不要、当日先着順、聴講無料）
- 担当学芸員によるギャラリートーク  
9月7日（土）14:00～15:00 会場：企画展示室（申込不要、企画展観覧券が必要です）
  - アートキューブでにぎやか鑑賞会  
8月24日（土）・25日（日）・9月16日（月・祝）10:00～10:40 会場：企画展示室  
（各開催日の3日前までに電話またはHPでお申し込みください。企画展観覧券が必要です）
- ◆福島県立美術館開館 40周年記念展  
みんなの福島県立美術館 その歩みとこれから  
2024年8月3日（土）～9月16日（月・祝）  
休館日：月曜日（8月12日、9月16日は開館）、8月13日（火）  
観覧料：一般・大学生600（480）円、高校生300（200）円、小・中学生200（100）円  
\*（ ）内は20名以上の団体料金

とうほう地域総合研究所  
研究員

高橋 宏幸

## 消滅可能性自治体について

～初めて「持続可能性」について分類された福島県内の自治体～

## &lt;要 旨&gt;

## 1. 持続可能性に基づく自治体の分類

人口戦略会議が公表した「令和6年・地方自治体『持続可能性』分析レポート」において、全国1,729自治体のうち744自治体が「消滅可能性自治体」に分類され、そのうち福島県内では33自治体であった。

## 2. 自治体別にみた若年女性人口増減

福島県内においては、若年女性構成比が小さい自治体が「消滅可能性自治体」である場合が多くみられる。

## 3. 自治体の事例

奥会津にある昭和村は伝統の「からむし織」と夏秋期生産量全国一の「かすみ草栽培」のため、転入する若年女性がいることで、「消滅可能性自治体」には分類されていない。

## 4. 持続可能性のある自治体であるためには

移住先としての魅力度向上を図り、移住者を呼び込むこと、若年女性の流出防止を図るため魅力ある地域づくりに取り組むことが重要である。

## はじめに

今年4月に人口戦略会議が「令和6年・地方自治体『持続可能性』分析レポート」を公表し、全国1,729自治体のうち744自治体が2020年から2050年までの30年間で若年女性人口が50%以上減少する「消滅可能性自治体」と公表した。10年前の2014年に初めて「消滅可能性自治体」が日本創生会議（現在活動停止中）から公表された際には、福島県内市町村は判定の対象外であり、今回初めて福島県内市町村分についても公表されたことで、46自治体のうち33自治体が「消滅可能性自治体」との現実に直面することとなった。

本稿では、「消滅可能性自治体」とは何であるか、福島県内自治体の分類\*などから傾向をとらえ、今後のあり方について考察したものである。

※浜通り13市町村は市町村ごとの分類は行われず、「浜通り」としてまとめて集計されている。

## 1. 持続可能性に基づく自治体の分類

## (1) 消滅可能性自治体とは

消滅可能性自治体は、全国1,729自治体のうち、2020年から2050年に至る30年間の「20～39歳の女性人口」の減少率が50%以上の744自治体のことである（図表1）。2014年5月に日本創生会議が初めて自治体の持続可能性分析（2010年から2040年）を実施し、896自治体が消滅可能性自治体と公表してから10年を経て、人口戦略会議が2024年版を公表した。

図表1 全国1,729自治体の持続可能性9分類

封鎖人口 移動仮定	減少率20%未満	減少率20～50%未満	減少率50%以上
減少率 20%未満	<b>A</b> 【自立持続可能性自治体】 65自治体 自立持続可能性	<b>D-①</b> 【その他の自治体】 121自治体 自然減対策が必要	<b>B-①</b> 【ブラックホール型自治体】 18自治体 自然減対策が極めて必要
減少率 20～50%未満	<b>D-②</b> 【その他の自治体】 260自治体 社会減対策が必要	<b>D-③</b> 【その他の自治体】 514自治体 自然減対策が必要 社会減対策が必要	<b>B-②</b> 【ブラックホール型自治体】 7自治体 自然減対策が極めて必要 社会減対策が必要
減少率 50%以上	<b>C-①</b> 【消滅可能性自治体】 176自治体 社会減対策が極めて必要	<b>C-②</b> 【消滅可能性自治体】 545自治体 自然減対策が必要 社会減対策が極めて必要	<b>C-③</b> 【消滅可能性自治体】 23自治体 自然減対策が極めて必要 社会減対策が極めて必要

資料：人口戦略会議「令和6年・地方自治体持続可能性分析レポート」

用語	内容
A. 自立持続可能性自治体	移動仮定、封鎖人口ともに減少率が20%未満であり、100年後も若年女性が5割近く残存していることで持続可能性が高い自治体。
B. ブラックホール型自治体	地域内の出生率が低く自らは人口を増やせないが、他地域からの人口流入に依存する自治体。
C. 消滅可能性自治体	若年女性（20～39歳）人口が2050年までの30年間で50%以上減少する自治体。
D. その他の自治体	上記3分類にあたらないが、そのほとんどで若年女性が減少する見込みの自治体。
封鎖人口	各自自治体において人口移動がなく、出生と死亡だけでの要因で変化すると仮定した人口 ※国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2023年推計）」における封鎖人口の「20～39歳女性」の2020～2050年の減少率を使用
移動仮定	移動傾向が一定程度続くとの仮定 ※国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2023年推計）」における2020～2050年の減少率を使用

## (2) 福島県内47自治体の9分類

福島県内市町村は、2014年版では国立社会保障・人口問題研究所が震災による人口移動を理由に福島県内市町村ごとの人口推計を行っておらず分析対象外であったが、今回の2024年版で初めて自治体ごとの分類が行われた。「自立持続可能性自治体」と「ブラックホール型自治体」に分類された自治体は無く、「消滅可能性自治体」が33自治体、「その他の自治体」が14自治体となっている。「その他の自治体」の中でも移動仮定20～50%未満の減少率、封鎖人口20%未満の減少率と、D-②に分類され他の自治体に比べ深刻度が低いのは、大玉村、磐梯町など5つの自治体である（図表2）。

図表2 福島県内47自治体の持続可能性9分類

封鎖人口 移動仮定	a'. 減少率20%未満	b'. 減少率20～50%未満	c'. 減少率50%以上
a. 減少率 20%未満	<b>A</b> 【自立持続可能性自治体】 <u>0</u> なし	<b>D-①</b> 【その他の自治体】 <u>0</u> なし	<b>B-①</b> 【ブラックホール型自治体】 <u>0</u> なし
b. 減少率 20～50%未満	<b>D-②</b> 【その他の自治体】 <u>5</u> 大玉村 磐梯町 湯川村 柳津町 中島村	<b>D-③</b> 【その他の自治体】 <u>9</u> 福島市 郡山市 須賀川市 本宮市 鏡石町 昭和村 西郷村 矢吹町 浜通り	<b>B-②</b> 【ブラックホール型自治体】 <u>0</u> なし
c. 減少率 50%以上	<b>C-①</b> 【消滅可能性自治体】 <u>3</u> 只見町 西会津町 矢祭町	<b>C-②</b> 【消滅可能性自治体】 <u>30</u> 会津若松市 白河市 喜多方市 二本松市 田村市 伊達市 桑折町 国見町 川俣町 天栄村 下郷町 檜枝岐村 南会津町 北塩原村 猪苗代町 会津坂下町 三島町 金山町 会津美里町 泉崎村 棚倉町 塙町 鮫川村 石川町 玉川村 平田村 浅川町 古殿町 三春町 小野町	<b>C-③</b> 【消滅可能性自治体】 <u>0</u> なし

資料：人口戦略会議「令和6年・地方自治体持続可能性分析レポート」をもとに作成

※浜通り13市町村は国立社会保障・人口問題研究所が各市町村別に将来人口推計を行っていないため、「浜通り」としてまとめて集計されている。

### (3) 福島県内自治体の分類

移動仮定人口はいずれの自治体も2020年から2050年にかけて2ケタ以上の減少率となっており、封鎖人口は磐梯町と柳津町が増加、湯川村、矢祭町、只見町が1ケタの減少率となっている（図表3）。

磐梯町と柳津町は転入・転出という人の出入りが無く、出生と死亡だけで見た場合（封鎖人口）に女性20～39歳人口は増えると推計されている。（移動仮定－封鎖人口）が小さいほど転出入による減少を抑えている自治体であり、その差が1ケタとなっているのは、昭和村、西郷村、郡山市、福島市である。

図表3 福島県内自治体の分類一覧

地区	自治体名	移動仮定 (a)	減少率ランク	封鎖人口 (β)	減少率ランク	a - β	9分類	判定
県北	福島市	▲44.8	b	▲35.8	b'	▲9.0	D-③	D. その他の自治体
	二本松市	▲59.7	c	▲30.1	b'	▲29.6	C-②	C. 消滅可能性自治体
	伊達市	▲59.5	c	▲30.1	b'	▲29.4	C-②	C. 消滅可能性自治体
	本宮市	▲47.3	b	▲30.0	b'	▲17.3	D-③	D. その他の自治体
	桑折町	▲57.1	c	▲28.0	b'	▲29.1	C-②	C. 消滅可能性自治体
	国見町	▲68.5	c	▲40.9	b'	▲27.6	C-②	C. 消滅可能性自治体
	川俣町	▲78.1	c	▲45.0	b'	▲33.1	C-②	C. 消滅可能性自治体
	大玉村	▲30.0	b	▲13.1	a'	▲16.9	D-②	D. その他の自治体
県中	郡山市	▲41.4	b	▲35.0	b'	▲6.4	D-③	D. その他の自治体
	須賀川市	▲43.8	b	▲24.2	b'	▲19.6	D-③	D. その他の自治体
	田村市	▲67.5	c	▲27.6	b'	▲39.9	C-②	C. 消滅可能性自治体
	鏡石町	▲41.3	b	▲24.2	b'	▲17.1	D-③	D. その他の自治体
	天栄村	▲63.3	c	▲37.4	b'	▲25.9	C-②	C. 消滅可能性自治体
	石川町	▲65.4	c	▲33.9	b'	▲31.5	C-②	C. 消滅可能性自治体
	玉川村	▲59.7	c	▲25.5	b'	▲34.2	C-②	C. 消滅可能性自治体
	平田村	▲75.7	c	▲32.8	b'	▲42.9	C-②	C. 消滅可能性自治体
	浅川町	▲60.8	c	▲26.4	b'	▲34.4	C-②	C. 消滅可能性自治体
	古殿町	▲71.9	c	▲24.8	b'	▲47.1	C-②	C. 消滅可能性自治体
	三春町	▲58.5	c	▲26.4	b'	▲32.1	C-②	C. 消滅可能性自治体
	小野町	▲69.4	c	▲24.8	b'	▲44.6	C-②	C. 消滅可能性自治体
	県南	白河市	▲50.3	c	▲31.0	b'	▲19.3	C-②
西郷村		▲32.1	b	▲30.1	b'	▲2.0	D-③	D. その他の自治体
泉崎村		▲54.2	c	▲31.3	b'	▲22.9	C-②	C. 消滅可能性自治体
中島村		▲45.8	b	▲17.1	a'	▲28.7	D-②	D. その他の自治体
矢吹町		▲34.0	b	▲22.4	b'	▲11.6	D-③	D. その他の自治体
棚倉町		▲54.4	c	▲25.1	b'	▲29.3	C-②	C. 消滅可能性自治体
矢祭町		▲57.3	c	▲6.4	a'	▲50.9	C-①	C. 消滅可能性自治体
塙町		▲64.1	c	▲27.8	b'	▲36.3	C-②	C. 消滅可能性自治体
鮫川村		▲74.1	c	▲24.9	b'	▲49.2	C-②	C. 消滅可能性自治体
会津	会津若松市	▲53.0	c	▲30.0	b'	▲23.0	C-②	C. 消滅可能性自治体
	喜多方市	▲60.9	c	▲24.2	b'	▲36.7	C-②	C. 消滅可能性自治体
	北塩原村	▲63.9	c	▲41.9	b'	▲22.0	C-②	C. 消滅可能性自治体
	西会津町	▲66.1	c	▲12.7	a'	▲53.4	C-①	C. 消滅可能性自治体
	磐梯町	▲38.3	b	5.8	a'	▲44.1	D-②	D. その他の自治体
	猪苗代町	▲65.4	c	▲25.2	b'	▲40.2	C-②	C. 消滅可能性自治体
	会津坂下町	▲58.7	c	▲29.6	b'	▲29.1	C-②	C. 消滅可能性自治体
	湯川村	▲47.2	b	▲4.8	a'	▲42.4	D-②	D. その他の自治体
	柳津町	▲42.9	b	2.6	a'	▲45.5	D-②	D. その他の自治体
	三島町	▲74.0	c	▲28.8	b'	▲45.2	C-②	C. 消滅可能性自治体
	金山町	▲70.3	c	▲20.3	b'	▲50.0	C-②	C. 消滅可能性自治体
	昭和村	▲38.7	b	▲37.1	b'	▲1.6	D-③	D. その他の自治体
	会津美里町	▲67.3	c	▲26.7	b'	▲40.6	C-②	C. 消滅可能性自治体
	南会津	下郷町	▲72.4	c	▲23.0	b'	▲49.4	C-②
檜枝岐村		▲62.2	c	▲29.7	b'	▲32.5	C-②	C. 消滅可能性自治体
只見町		▲56.4	c	▲7.2	a'	▲49.2	C-①	C. 消滅可能性自治体
南会津町		▲72.7	c	▲22.1	b'	▲50.6	C-②	C. 消滅可能性自治体
浜通り13市町村	▲45.5	b	▲28.9	b'	▲16.6	D-③	D. その他の自治体	

資料：人口戦略会議「令和6年・地方自治体持続可能性分析レポート」をもとに作成

## 2. 自治体別にみた若年女性人口増減

### (1) 女性20～39歳の人口増減率上位下位自治体

福島県内の自治体を移動仮定人口と封鎖人口の上位下位別にみると、移動仮定・封鎖人口とも川俣町が下位1位となっている。移動仮定人口は転出入を加味した推計であり、地域の核となる都市に近く、ベッドタウン的な要素のある大玉村や西郷村の減少率は低めである。転出入を加味せず死亡・出生予測のみで推計する封鎖人口は、磐梯町と柳津町の2町が2020年から2050年にかけて増加すると推計されている（図表4）。

図表4 女性20～39歳の人口増減率の県内上位・下位自治体

単位：人、%

移動仮定人口					封鎖人口				
上位順位	自治体名	2020年人口	2050年人口	増減率	上位順位	自治体名	2020年人口	2050年人口	増減率
1	大玉村	926	648	△ 30.0	1	磐梯町	243	257	5.8
2	西郷村	2,221	1,507	△ 32.1	2	柳津町	154	158	2.6
3	矢吹町	1,528	1,008	△ 34.0	3	湯川村	248	236	△ 4.8
4	磐梯町	243	150	△ 38.3	4	矢祭町	375	351	△ 6.4
5	昭和村	62	38	△ 38.7	5	只見町	195	181	△ 7.2
下位順位	自治体名	2020年人口	2050年人口	増減率	下位順位	自治体名	2020年人口	2050年人口	増減率
1	川俣町	798	175	△ 78.1	1	川俣町	798	439	△ 45.0
2	平田村	415	101	△ 75.7	2	北塩原村	191	111	△ 41.9
3	鮫川村	205	53	△ 74.1	3	国見町	594	351	△ 40.9
4	三島町	73	19	△ 74.0	4	天栄村	414	259	△ 37.4
5	南会津町	856	234	△ 72.7	5	昭和村	62	39	△ 37.1

資料：人口戦略会議「令和6年・地方自治体持続可能性分析レポート」をもとに作成

※移動仮定人口は2020→2050年の若年女性（20～39歳）の移動想定人口、封鎖人口は転入転出がなく死亡・出生のみで推移する場合の2020→2050年の若年女性人口。

### (2) 若年（20～39歳）女性人口構成比が上位・下位の自治体

若年女性人口が減少することで出生数が低下し続け、若年女性人口がさらに減少が続いていくことで、最終的には自治体が消滅するというのが、消滅可能性自治体の考え方である。若年女性人口の構成比が高ければ子どもが生まれる可能性も高まり、消滅を免れる可能性が高まると考えられ、構成比上位は「その他の自治体」に分類される自治体が多い。一方、構成比下位は「消滅可能性自治体」に分類される自治体が多いが、柳津町と昭和村は若年女性構成比が低いにも関わらず、「消滅可能性自治体」ではなく「その他の自治体」となっている（図表5）。

柳津町は封鎖人口の減少率が小さいこと、昭和村は封鎖人口の減少率が高いが、転出入を加味した移動仮定による人口減少率と差がないことから、「消滅可能性自治体」とはなっていない。

図表5 女性20～39歳の人口構成比上位・下位自治体

単位：%

上位順位	自治体名	分類	構成比	下位順位	自治体名	分類	構成比
1	西郷村	その他の自治体	22.1	1	金山町	消滅可能性自治体	7.7
2	大玉村	その他の自治体	20.3	2	三島町	消滅可能性自治体	9.9
3	郡山市	その他の自治体	20.2	3	柳津町	その他の自治体	10.0
4	鏡石町	その他の自治体	19.5	4	昭和村	その他の自治体	10.1
5	本宮市	その他の自治体	19.2	4	只見町	消滅可能性自治体	10.1
6	福島市	その他の自治体	18.6	6	下郷町	消滅可能性自治体	11.0
7	白河市	消滅可能性自治体	18.1	7	古殿町	消滅可能性自治体	11.4
8	須賀川市	その他の自治体	18.0	7	西会津町	消滅可能性自治体	11.4
8	矢吹町	その他の自治体	18.0	9	南会津町	消滅可能性自治体	11.8
10	会津若松市	消滅可能性自治体	17.6	10	北塩原村	消滅可能性自治体	12.1
県平均			17.6				

資料：総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」

※2023年1月1日住民基本台帳人口

### 3. 自治体の事例

#### (1) 自立持続可能性自治体の事例

自立持続可能性自治体65市町村のうち、東日本には13都県に21市町村がある（図表6）。自立持続可能性自治体に分類された自治体にはいくつかの特徴があり、①大都市のベッドタウンまたは近隣に通勤可能な地域の中核都市がある、②大規模工場など若年女性の働き場所がある、③子育て支援策が充実し移住者に人気といったことが挙げられる。

また、これらの自治体は人口が増加していること、平均年齢が比較的若いこと、財政力指数が高いことの3つの要素を満たす自治体が多くみられる。人口が増えて税収が上がり、税収から移住・子育て支援策を充実させ、さらに若い世代が増えるといった好循環が生まれているものと考えられる。

図表6 東日本の自立持続可能性自治体一覧

都県名	市町村名	移動仮定	封鎖人口	5年間の人口増加率 (%)	平均年齢 (歳)	財政力指数 (令和4年度)	市町村の特記事項
宮城県	大衡村	△ 15.2	△ 9.6	2.6	46.4	0.48	トヨタ自動車東日本が立地
茨城県	つくばみらい市	4.1	△ 14.7	1.5	46.1	0.76	つくばエクスプレス沿線のベッドタウン
群馬県	吉岡町	△ 15.6	△ 18.4	3.4	44.4	0.68	前橋市、渋川市にそれぞれ隣接
埼玉県	滑川町	1.7	△ 11.1	8.3	44.0	0.84	東京のベッドタウンとして宅地開発が盛ん
千葉県	流山市	2.4	△ 20.0	14.6	43.9	0.93	つくばエクスプレス開通で東京とのアクセス向上、子育て世代人口が増加
	印西市	△ 1.5	△ 9.1	10.7	44.0	1.06	千葉ニュータウンの拠点都市として子育て世代が増加
東京都	八丈町	△ 19.5	△ 6.0	△ 7.5	53.2	0.27	伊豆諸島の八丈島
神奈川県	葉山町	△ 8.0	△ 13.1	△ 1.3	50.2	0.83	県内屈指の高級住宅街
	開成町	△ 10.7	△ 15.3	7.7	45.7	0.86	富士フィルムなどの大企業や研究所が拠点を置く
石川県	川北町	△ 13.6	△ 12.0	△ 3.3	43.6	0.57	金沢市、小松市に通勤可能。ジャパンディスプレイなどが立地
山梨県	忍野村	△ 19.0	△ 5.2	3.0	42.4	1.05	世界有数のロボット企業ファナックが立地
長野県	原村	△ 19.5	△ 8.3	1.5	51.1	0.37	八ヶ岳山麓の避暑地観光地で都会からの移住者に人気
	南箕輪村	△ 15.9	△ 14.6	4.9	43.8	0.54	子育て支援充実で移住者に人気で平均年齢が県内一若い
岐阜県	美濃加茂市	△ 17.2	△ 18.4	2.4	44.2	0.78	多くの工場が立地し外国人が多い（外国人比率9.1%）
静岡県	長泉町	△ 16.1	△ 14.7	2.4	43.7	1.18	三島市と沼津市と市街地が続いており東レなど工場が多く立地
愛知県	大府市	△ 11.6	△ 19.9	4.4	43.0	1.11	愛三工業など自動車産業を中心に多くの工場が立地
	日進市	△ 13.4	△ 16.6	4.0	42.7	1.00	多くの大学の立地に加え、名古屋市、豊田市に隣接
	東郷町	△ 14.6	△ 19.9	2.4	44.2	0.87	名古屋市と豊田市の中間に位置し両市の通勤通学圏
	飛鳥村	△ 13.9	△ 14.7	4.0	47.8	2.02	名古屋市に隣接し臨海工業地帯として開発され財政力指数が高い
	阿久比町	△ 12.2	0.3	2.3	45.1	0.74	名古屋中心街まで車で30分に位置し工業団地や住宅団地が進出
	幸田町	△ 11.3	△ 15.5	7.3	42.6	1.05	複数の工業団地があり自動車関連産業が盛ん

資料：人口戦略会議「令和6年地方自治体持続可能性分析レポート」総務省統計局「令和2年国勢調査」「市町村別財政力指数」などから作成

※全国平均 5年間の人口増加率△0.7、平均年齢47.6歳、財政力指数0.49、色塗りは全国平均を上回る（人口増加率・財政力指数）・下回る（平均年齢）市町村

## (2) 福島県内の事例（昭和村）

### A. 移住者を惹きつける地域産業

近隣に通勤可能な中核都市が無く、村内に大規模工場も無く、人口減少する自治体でありながら、消滅可能性自治体には分類されていないのは、奥会津の山間部に位置する人口約1,200人の昭和村である。同村が消滅可能性自治体となっていない要因としては、同村伝統の「からむし織」と夏秋期全国一の生産量を誇る「かすみ草栽培」にある。

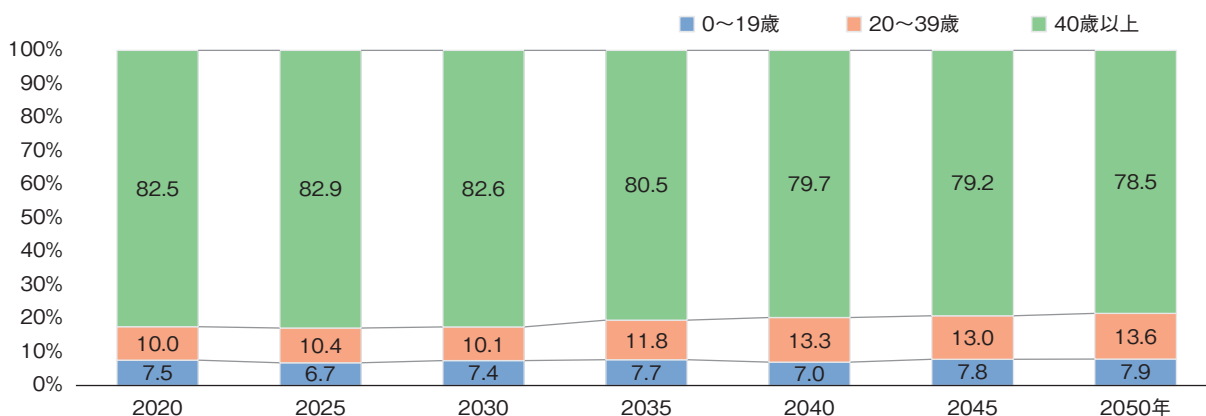
「からむし織」については伝統技術を継承すべく「からむし織体験生」として毎年、若年女性が転入し、一部は研修後も村内に定住していること、「かすみ草栽培」については若い夫婦が移住して就農していることである。移住者がいることで若年女性の将来推計人口の減少幅が小さく、消滅可能性自治体の要件となる減少率50%以上とはなっていない。

### B. 女性人口将来構成比

昭和村の女性老年（65歳以上）人口割合は60.7%（2024年6月1日現在）であり、福島県全体での37.0%を大きく上回る高齢化が進んだ自治体である。同村の若年女性（20～39歳）人口割合（2020年時点）は10.0%であり、県全体の17.6%を8ポイント近く下回っている。現時点では若年女性割合が小さい同村であるが、2050年になると13.6%まで上昇し、割合が低下していく福島県全体の割合と同じになる（図表7、図表8）。

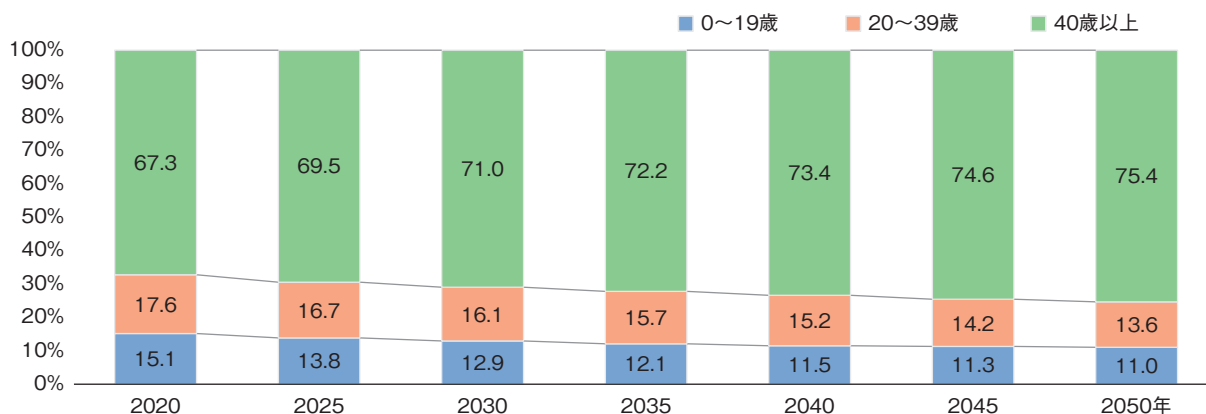
消滅可能性自治体を解消するためには、昭和村のように若年女性の移住者を呼び込み将来にわたって定住してもらうことが方法の1つである。

図表7 昭和村女性人口の将来構成比推計（移動仮定）



資料：国立社会保障・人口問題研究所「市区町村別将来推計人口」を加工

図表8 福島県女性人口の将来構成比推計（移動仮定）



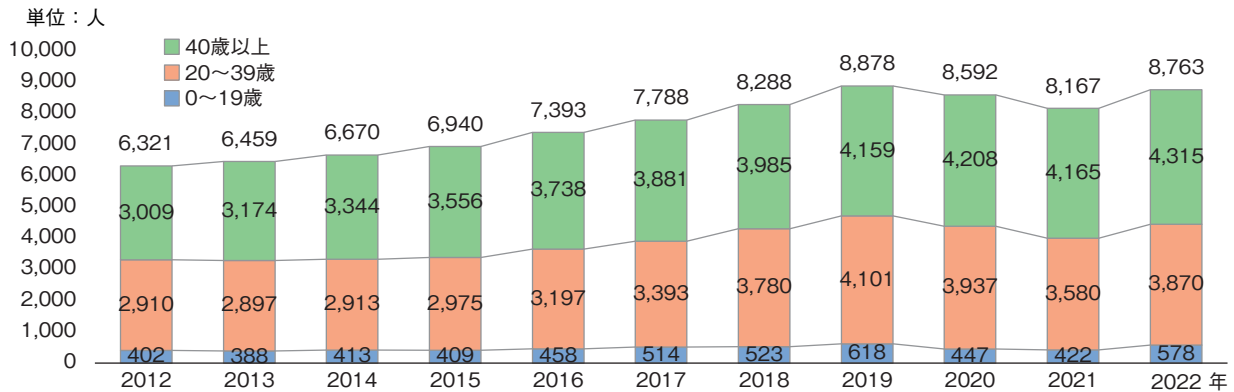
資料：国立社会保障・人口問題研究所「市区町村別将来推計人口」を加工

## 4. 持続可能性のある自治体であるためには

### (1) 外国人受入れ

2014年公表版で「消滅可能性自治体」とされた896自治体のうち、今回の2024年版で239自治体が「消滅可能性自治体」を脱却した。その要因の1つとして、人口戦略会議では、外国人数が大きく増えていることをあげている。全国も同様であるが、福島県においても女性在留外国人数は、2020年対2012年比、全体で+35.9%、20~39歳で+35.3%と大きく増加している（図表9）。若年外国人女性の移民を増やすことが「消滅可能性自治体」を脱却する方法の1つであるが、定着せずに帰国するなど様々なリスクもある。

図表9 福島県内の女性在留外国人数推移



資料：法務省「在留外国人統計」

### (2) 移住先としての魅力度向上

「自立持続可能性自治体」には、ベッドタウンや工場が集積する自治体のほかに、避暑地など移住者が多い自治体が含まれている。出生と死亡だけの要因で変化する封鎖人口は人口が移動しない仮定であるため、出生率の向上という「自然減対策」が重要である。一方、移動仮定人口は人口流出を防いで、移住者など人口流入を図る「社会減対策」が重要となってくる。

第3章であげた昭和村の事例は、同村の基幹産業ともなっている「かすみ草栽培」に就農する移住者や伝統の「からむし織」研修制度に従事する若年女性がいることで、移動仮定人口の減少を食い止めていることである。同村のような特色ある産業がある自治体ばかりではないことから、移住してその自治体に住むことでのメリットや生きがいを見出せるような、地域の魅力度向上を図っていくことが大切となってくる。

### (3) 若年女性の流出防止

女性に限らず男性もそうであるが、進学・就職のために地元を離れることで、地方における若年者数は減少する。卒業後に地元で就職、あるいはUターン転職すれば、若年者数減少をある程度食い止めることはできるが、特に女性においては地元でやりたい仕事のできる職場が無いといった理由から、都会に流出して戻ってこない例が多い。

地元である地方で暮らす意義、やりがいを見出せるよう、自治体、地域企業、地域住民などが一体となって、魅力ある地域づくりに取り組み、1人でも多く人口流出を食い止めていくことが重要である。

以上



「はじめる」から「かなえる」へ。福島県では、震災から10年を機に「ふくしまからはじめよう」からのバトンを渡す、スローガン「ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま」を策定しました。復興に向けて歩んできた「これまで」と、新しい未来に繋げていく「これから」と、県民のみなさんひとりひとりの「今」を重ねたメッセージです。

## 夏の企画展

# 「縄文 DX <sup>ほうしょうじり</sup> -会津・法正尻遺跡と交流の千年紀-

福島県立博物館

磐梯町・猪苗代町にまたがる法正尻遺跡は、県を代表する縄文時代中期の大規模なムラの跡です。この遺跡では、約1,000年間作り続けられた縄文土器が大量に出土しました。

ダイナミックな構図や立体的なデザインによるデラックス (DX) な土器。これらは福島県域を含む東北地方南部に広がる大木式土器<sup>だいぎ</sup>を主体としています。その他にも福島県地域は、隣接する北陸地方や関東地方との関わりから独自に変化した土器 [DX] もみられます。

「DX」すなわち「D(大木式土器のイニシャル)」に何かを掛け合わせた「X(ハイブリッド)」な土器のルーツや文化が交差するネットワークから、縄文ふくしまの特徴を見ていきます。

企画展に関する詳しい情報をホームページで公開しています。

福島県立博物館では、縄文土器に焦点を当てた企画展「縄文 DX」を開催しています。今回は、その見どころの一部を紹介しましょう。

### 国重要文化財「法正尻遺跡出土品」 指定15周年記念

まずは、国重要文化財指定15周年を迎えた法正尻遺跡の縄文土器です。縄文中期は豪華な文様が器面を飾るのが特徴です。

大木式土器は、縄文土器の名前の由来となった縄目文様を多用する伝統があります。器面に縄文を施し、その上に工具でなぞった線（沈線）や粘土ひもを貼り付けて盛り上げた線で、渦巻文様やS字文様を描くのが一般的です。特に口縁部の立



写真1 法正尻遺跡出土 火焰型土器（国重文）  
福島県教育委員会蔵

体的な把手<sup>とって</sup>は装飾性の高さ<sup>とって</sup>と技術の高さが伺えます。

一方で、縄文を全く使わないスタイルの土器が、有名な<sup>かえん</sup>火焰型土器です。とさかのような形状の大きな突起がシンボルで、隆起した渦巻文様とそれに沿わせた丸みを帯びた線で器面全体を覆い尽くします。

法正尻遺跡をはじめ会津地域、本県中通り地方中部から栃木県北部には、火焰型土器にアレンジを加えて独自のスタイルにしたものや大木式土器と掛け合わせたハイブリッドなものが見られます(写真1)。このように、縄文時代における本県の土器は、北陸地方や関東地方と接する地理的な条件から他の地域の流儀を取り込んだものがよく見られることが特徴の一つです。

### スペシャルゲスト登場！ 国宝土偶「縄文の女神」

また、縄文時代中期は土偶の時代です。妊娠した女性をかたどるとされる土の人形が、土偶になります。県内でもこの時期から土偶の出土遺跡数が多くなり、土偶を使ったマツリが定着したものと考えられます。

8月20日(火)からは、国宝土偶「縄文の女神」が、法正尻遺跡出土品の国指定15周年を祝って山形県から駆け付けます。(それまでは複製品の展示をしています。)

この土偶は高さが45cmもある「日本最大の土偶」です(写真2)。

顔は半月形にデフォルメされていますが、上部の2つの孔が目のように見えます。両サイドにも穴が空き、耳か耳飾りのような表現になっています。

上半身は両腕を左右に伸ばしたひし形をしています。乳房に沿った線や体の中心の正中線以外に文様はなく、背中も背骨のラインのみが表現されいたってシンプルな作りです。

下半身は、へその部分が前に突き出し、お尻もまっすぐな背中のラインから急に後ろに張り出す



写真2 国宝 土偶「縄文の女神」  
山形県西ノ前遺跡

山形県立博物館蔵・写真提供

出尻形をしていて女性らしさを表しています。この腰回りに幾何学的な文様が集中しています。

脚部は末広りのベルボトムのような角柱形の2本の長い足がそびえ立つように伸びています。横線が幾重にも引かれていて縦長の脚部に落ち着きを与えています。

以上のように、この土偶は、体の部位ごとにくつつかの特徴がありますが、全体的にはシャープな印象を与え、まるで現代アートの様なたたずまいをみせています。その秘密は、体の各面が合わさる稜線にあります。エッジが効いた稜線が、足元から上半身の体側まで繋がっていて、土偶に一

体感とメリハリを加えています。表側の左右の稜線は途中で分かれ、へその部分で連結し、大事な腹部を強調する効果があります。

また、写真では見えませんが、お尻のラインの稜線は、エッジを強調せずに丸みをつけて整えるなど強弱のさじ加減が実に巧みです。

この「縄文の女神」は西ノ前タイプと呼ばれる土偶の頂点に立ちますが、類似の土偶は福島県内でも見られます。脚部のみの資料ですが、二本松市堂平遺跡どうだいらのものは大形品で、復元すると西ノ前遺跡に匹敵する大きさです。

### 縄文土器の最高傑作

#### しんぞうつつがたどき 神像筒形土器

この土器は高さが55cmもある大型品です（写真3）。最大の特徴は、あたかも「鎧」をまとったヒトが両腕を前に伸ばして土器に密着しているかのような立体的な造形です。

腕の先は丸く巻き込み、頭部は環状の粘土で顔面はなく、人間表現とは少しかけ離れています。首の付け根の部分は、人間でいう僧帽筋そうぼうきんが発達し、大きく盛り上がった肩と太い二の腕とをあわせて力強さを打ち出しています。

逆三角形の背中と首筋には、この時期の長野県ではまれな縄文（縄目文様）を転がしており、複雑な文様で覆われた器面の中でこの造形を際立たせています。

下半身は底部から帯状に伸び、蕨手状わらびでじょうに巻き込む文様になっています。

このような、人体のようで人間ではない文様は、神様がヒトの姿で現れる「化身」を表現していると考えられます。見事という言葉しか出てこないこの土器は、多くの縄文土器の中で最高傑作の一つと言えるでしょう。

今回ご紹介した出土品のほか、柳津町の土偶装飾付土器のように、福島県内には、土器と土偶を掛け合わせたハイブリッド土器が存在します。

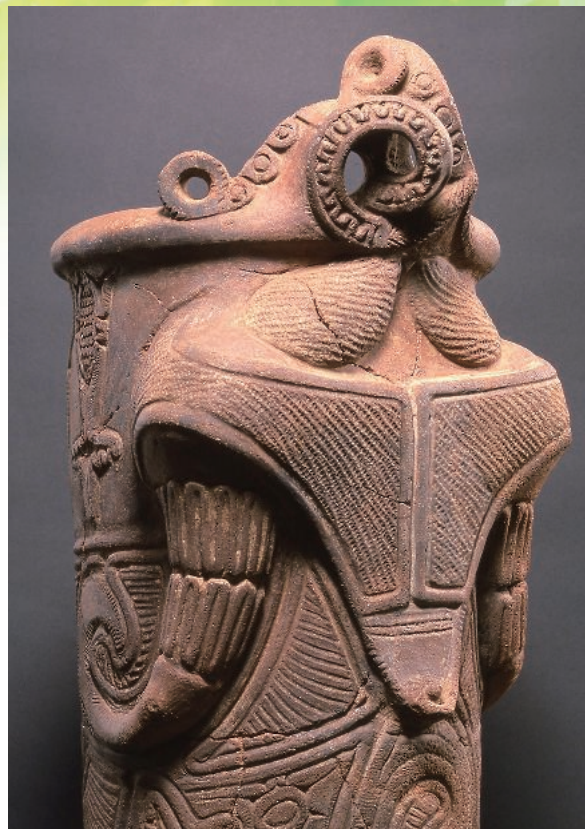


写真3 神像筒形土器（国重文）  
長野県藤内遺跡

富士見町井戸尻考古館蔵・写真提供

ぜひこの夏は、県立博物館からディープな縄文世界をのぞいてみませんか。

問い合わせ先 福島県立博物館

電話：0242（28）6000

会期：9月1日(日)まで

会場：企画展示室

企画展料金：一般・大学生 1,000円  
(20名以上の団体：800円)、  
高校生以下無料  
※企画展料金で常設展もご覧いただけます。

休館日：毎週月曜日（8月12日は開館）、  
8月13日(火)

開館時間：午前9時30分～午後5時  
(入場は午後4時30分まで)

